

データベース・システム研究会

58. 10. 27

〔I〕 研究会存続の必要性とその理由

今日、データベース・システム技術は計算機ソフトウェア・システムの中で基本的な位置を占める重要な技術となっている。しかし、計算機諸技術の発展、中でもローカルエリア・ネットワーク、光ディスク、図形処理装置などの技術発達をみると、基幹的なソフトウェア技術といえども、新しいハードウェアの進歩に合わせて多くの研究開発をさせまいかなければならないことは明らかである。また最近のパーソナル・コンピュータの普及や、安価で高性能なラボラトリ・コンピュータやOAシステムの広汎な普及をみると、データベース技術が質的に違ったニーズに对应しなければならぬ要素も出始めている。

一方、データベースの基礎理論的な研究分野においても、まだまだ未解決の問題が山積し、現在世界的にみても最も活発に研究開発が進められている分野のひとつであることは周知の通りである。また最近には、データベースの基礎理論が人工知能など他の新しい分野と結びつく可能性も大きいと言われている。

以上の状況にかんがみ、従来のデータベース・システム研究会を発展継承し、我国におけるデータベースシステム研究の発表ならびに研鑽の場としたい。

[II] 研究会、主査及び連絡委員等

主査 酒井博敬

幹事 有澤博、吉田郁三

連絡委員 現在のデータベース・システム研究会連絡委員を中心に約20名に委嘱する。

[III] 活動内容

- ・研究会 年5回。
1回1日とし、4件程度の研究発表を行う。(年間20件、主要トピックスのサーベイも含む。)
- ・研究連絡会 年5回程度行う。
- ・データベース・シンポジウム
本研究会連絡委員会メンバーが中心となり、情報処理学会主催のもとに開催。データベースの新しい研究成果の発表と将来展望の場とする。
- ・当面は3年後に日本で開催される巨大データベース国際会議(VLDB)の日本窓口の役割を果たす。